第８期 第12回 静岡市行財政改革推進審議会　会議録

１．日　　時　令和２年１月14日（火）　13：30～16：00

２．場　　所　静岡庁舎　本館３階　第３委員会室

３．出 席 者　【委員】

田形和幸会長、岩井泰次郎委員、植田眞委員、内山和俊委員、
小泉祐一郎委員、坂野真帆委員、鈴木貴子委員、西尾真治委員

【行政】

岩田歴史文化課長、安本交通政策課長、堀池広報課参事、
久保田観光・国際交流課課長補佐　他

〔事務局〕

大長総務局理事、初田総務課長、降矢行財政改革推進係長、金原主査　他

４．会議内容

(1) 開　会

(2) 議　事

ア　答申骨子案について

(3) 今後のスケジュール

(4) 閉　会

審議会内容は以下の会議録のとおり

田形和幸会長：次第の２の議事に入る。今回は事務局から示された答申の骨子案について審議いただきたい。本日で実質的な審議は終了となるため、忌憚のない御意見をお願いしたい。資料について事務局から説明をお願いしたい。

≪事務局から説明：略≫

田形和幸会長：全体を通して意見があれば。資料１の11ページの「リピーター促進のための方策」のところの意見が少ない。そちらも踏まえて御意見をいただきたい。

小泉祐一郎委員：ロジックモデルというか、論理の展開に筋が通っているかという点で気になったのが、資料２を見ると、「歴史・文化資源の連携と活用による地域経済の活性化」ということで、目指す姿は地域経済の活性化に波及していくこととあり、この答申書の方では稼げる施設、資源として発展させていくということが一つの大きなポイントになっていると思う。稼げる資源というのは、資源そのものが稼ぐというのももちろんあるが、むしろ宿泊客が増えるとか、そこで土産物が売れるという形もある。場合によっては、資源そのものはむしろ無料で見ていただき、そこでお客さんが土産物を買うとか、長期滞在して飲食する、宿泊するなどの経済波及効果の方が大きいと思う。そこのところを全体的に見た時にはっきりさせた方がいい気がする。「稼げる資源への発展」と言うと、単純にその施設で儲ければいいというように話が小さくなってしまう。本当は地域の経済に波及させていくことが重要だと思っている。そこを記載して分かりやすくした方が狙いにつながると思う。

また、細かい話だが、目指す姿のところに「歴史文化資源の磨き上げと稼げる資源への発展」と書いてあるが、磨き上げることと稼げる資源への発展が並列になっている。では、稼げる資源への発展とは何なのかと今度は下を見ていくと、そこでもやはり宿泊客が増えるとか、現地での経済活動につなげるということが必要だと書いてある。例えば、資料１の５ページ「１　目指す姿」の９行目、「市内の歴史・文化資源を稼げる資源に発展させることを実現するには」ということで、「磨き上げにより価値を高めることが必要であり、そのためには」とあるが、稼げる資源に発展させるためにはもちろんその資源を磨き上げて価値を高めることも大切なことではあるが、経済活動につなげるということがあって初めて稼げる。そちらがメインだと思っている。価値を高めて、さらに地域の経済活動につなげていくことが必要だという風にしていく方がいい。

その関連で、11 ページの「③　歴史・文化資源の磨き上げにより価値を高める」とあり、それはそれで必要だが、その次に入れるのがいいのか、その価値を高め経済活動につなげると一度に書いてしまった方がいいのか分からないが、いずれにしてもここのところで価値を高めることだけでなく、経済活動につなげるという話があった方がいい。経済活動につなげていく話は、他のところで宿泊の話などもあるが、現地に近いところでは例えば駿府城公園におでん屋さんができて、私も便利で学生を連れて行くのだが、ああいうことで実際に動いておられる。さらに言うと、来た人たちを街中の駿府の城下町の方に誘うということで、導線を引っ張って街中に持って行く。ただ、そこは観光の誘導の話と重なることがあるので、そこはどう書くか。いずれにしても言いたいことは、歴史文化資源がそのままずばり稼ぐのではなく、そこで来た人たちをいかに回遊させて民間活動につなげるかということが一番重要だ。

また、これは書いていただかなくてもいいが、認識として申し上げると、４ページにエリア別観光交流客数の推移ということで、数が横ばいだという表がある。ここで重要なのは、来た人達がより長く滞在して経済活動につながっていくことだ。数だけを追いかけて、

数を増やすということだけでなく、むしろ数は関係なく、回遊を促していく。

正月に三保松原をヒアリングしたところ、新しい施設ができて駐車場も整備されていて非常にいいということだ。もともと獣道のような道があって、そこを観光客が勝手に上がってしまうからロープを張っていただいた。観光客は勝手に動くものだと非常に実感した。その話を聞いて回ってみると、工事現場にある馬みたいな誘導の物をうまく置いていて、非常に導線をうまくやっている。導線をやる中で、うまく回ってもらって、経済活動につなげていくということもある。路面の案内表示について話をしたが、路面表示は歩道などにはいいが、駿府城の中などは、三保松原のような可動式の馬のようなものを活用し、案内が随所にあってうまく回れるようにする方法も検討してもいいかもしれない。

田形和幸会長：この前の登呂遺跡もそうだったが、その施設でお金を稼ぐということではなく、リピーターを含めて泊まってもらうとか、ここに寄ったら次にどこかに寄ってもらうとか、そういう御意見もあった。そういうネットワークも大切だ。

岩井泰次郎委員：骨子はよくまとまっている。網羅されていてすばらしいと思う。生徒でいうと国語も算数も理科も社会もみんな90点以上とれるような優秀な子という感じだ。おいしいものがあって夜景もきれいで歴史があって。でもそのキーワードだけを並べてどこの都市を思い浮かべるかと全国にアンケートをとった時、果たして静岡という答えが返ってくるかは少し疑問だ。

先週、ワールドビジネスサテライトというニュース番組で、サウナのランキングをやっていた。静岡には敷地というサウナの聖地がある。ここには全国から来るのだと私も信じていた。しかし、敷地はベスト10にも出てこなかった。何が言いたいかというと、その土地その土地で、うちの魚はおいしい、海の物も山の物もある、夜景がきれいとか、歴史と文化の街だと言っても、どこもうちが聖地だと言い張っている。だったら、全部90点とれる子ではなく、他は全部落第点だが、サッカーはものすごくうまいとか、英語や算数は全くだめだがバイオリンはやたらと上手という子の方が魅力があるのかなと感じる。これはこれでベースとして、素材というか、今あるポテンシャルというものがうまくまとまっているが、どこか尖ったところを出していかないと。お寿司のおいしい街ですといっても、函館だってある。歴史があるといっても金沢だってある。どこか尖ったところをピックアップして出していただきたいと思う。

内山和俊委員：9ページに関して意見を申し上げる。今、全国で観光ボランティアガイドが非常に活躍している。静岡においても二つの大きな団体があり、葵区や駿河区を中心に活躍しているNPO法人の「駿府ウエイブ」、清水区を中心に活躍している「清水観光ボランティアガイド」だ。中段に市が養成をしているという記載があるが、静岡市が観光ボランティアガイド養成講座を開催して、そこに講師を派遣したりしている。講座の修了生の中で、ボランティアガイドをやりたいという人に対して二つの団体が受け入れを行い、半年間で一人前に育成する。「駿府ウエイブ」でいうと、年間6万5千人ほどの観光客の案内をしている。観光ボランティアガイドの要素が非常に大きい。歴史文化施設ができれば、

やはり活躍するのはボランティアガイドだ。それから地域で活動するいろいろな団体がある。そういうものも少し重点的に記載していただきたいと思う。

植田眞委員：観光に特化しているが、観光だけで果たしていいのだろうか。今静岡に住んでいる住人向けにはほとんど書かれていない。静岡市とその周辺で 100 万人くらいいると思うが、その人たちのことを考えた記載が少しあってもいいのではないか。それから、いろいろな看板をうまく使いたいというのがあるが、それが非常に煩雑というか、ごちゃごちゃになってはいけないと思う。昔、奈良に入ると、ものすごく看板だらけで非常に汚く、地元の住民もそうだし観光客もそうだが、入る気がしないということがあった。ある程度規制したような形も必要ではないかと思う。

田形和幸会長：観光というか、歴史文化施設を作っているわけだ。そういうアピールをしっかりしていただいて発信していただく。先程、小泉委員から三保に行かれたという話があったが、私も地元に居ながら、実はこの前何十年振りかに行ってきた。文化施設があって、シアターがあって、それらを観て来たが、市民として三保にそういうものがあることを知らなかった。地元の人にもしっかりアピールしていくことが必要だ。文化施設を磨き上げるというより、それをアピールできるような形で、ネットワークを活かして回遊できるようにする。看板のことについても、中には統一した看板でないといけないという市町村もある。そういうことも検討した方がいいかもしれない。

西尾真治委員：小泉委員からも指摘があったが、歴史文化資源の活用がいかに地域経済の活性化につながっていくかというところの流れというかメカニズムを少し厚くした方がよいと思った。特にターゲットを見た方がよい。資料２の左側（１）②に「誘客、宿泊、リピーターを増やす」と書いてあるが、ここが一番重要な観点だと思う。これは実は「具体的取組」の一つというよりは、誘客、宿泊、リピーターを増やすためにどうすればよいのかということを、全体で考えていかなければならないという、このテーマ全体の目標にあたる話だ。会議の議論の中でもターゲットをどういう風に考えるかということで、高齢者や家族連れ、インバウンドとか、修学旅行生など、そういったターゲットを思い浮かべた上で、よくマーケティングでは三角形で示すが、まずは静岡に行ったことがない興味がない人、これは「誘客」にあたるが、まずは行ってみたいとどう思わせるかを考える。一回静岡に来てくれた人に対しては、どうやって来てくれた観光客に静岡に留まってもらうか、もっと居たいと思ってもらい、「宿泊」につなげるかを考える。さらに、「リピーター」としてまた来たいと思ってもらうにはどうしたらよいか。その３段階くらいに分けて考えていく。それがちょうどこの「誘客」、「宿泊」、「リピーター」という考え方にも対応していると思う。ターゲットを想定して、それぞれのターゲットの層に対してどういった行動変容を促すことができるのかという観点で整理するとよい。

２点目は、私もこの答申書を見ると、「何でもあるが何もない」という静岡市の特徴をそのまま表していると思う。この中でも目玉となるような、これだけのために静岡市に行ってみたいと思わせるようなものを考えていく必要があると思う。個人的には天守台を

見た時に本物の実物の迫力には非常に心を動かされた。ああいった本物の実物と VR や AR などの最新技術を活用していく。今、東京にあるチームラボが非常に人気で、海外からも日本の一つの目玉の観光資源として注目されている。あのようなデジタルアートの映像と、天守台のような実物が重なっているような空間体験を提供できるものを作り上げることができれば、海外にも通用するような大きな目玉になると思う。

3点目は、歴史文化資源がたくさんあるので、それをうまく活用して相乗効果を出そうということだから、どうやって資源をネットワーク化させていくか、ネットワーク化させた効果をどれだけ高めていくかという観点の検討をもっとした方がよいのではないか。例えば、いろいろな資源を回れば回るほど楽しくなるような、コレクション欲求やコンプリート欲求を刺激するようなスタンプラリーとかロゲイニングというようなものも一つの方向性かなと思う。以前いただいた資料を見直した時に、デスティネーションキャンペーンのパンフレットがあった。これは、スタンプラリーをやったり、いろいろな資源を多く回っていくというコンセプトでまとめられていて、非常によいパンフレットだと思った。このデスティネーションキャンペーンの取組がどうだったのかということを一回振り返ってフォローアップしてみると、今後どうしていけばよいのかという一つのヒントになるのではないか。

4点目は、MaaS については一つの目玉の方向性として可能性があるのではないかと注目している。スマホ一つで、一日あればどこをどう回っていけばよいのかというおすすめのコースと、それを交通機関と利用する施設の決済がすべてセットで提供されるといったサービスだ。自家用車がなくても、一人でフラッと行っても静岡の魅力を体験できる。新しいこれからの観光のスタイルとして広がってくると思うから、そういうことも先取りして検討されるとよいと思う。

鈴木貴子委員：岩井委員のおっしゃっていた、どれもいいようにできているが、今一つ魅力がないというところで、資料3の一番下にあるように全国一を目指せるものを磨く、葵舟だけでも全国で一番になるような戦略を考えるということがあると思う。それこそ昨日一昨日と、サッカーで静岡が頑張って、藤枝の女子高が高校女子サッカーで日本一、そして静岡学園が男子サッカーで日本一になり、ようやくサッカー王国静岡が復活したなと思っている。多くの日本人が静岡＝サッカー王国と思っていて、これは誰もが納得するところだ。サッカー＝静岡と思われるような、まるちゃん＝静岡、それ以外にも全国どこに行ってもこれは静岡と思えるようなものを考えていってほしい。この週末に、富士にある NPO がやっている子どもの居場所づくりの場所に初めて行った。そこに東京と中国地方の大学生が集まっていた。JR の吉原から岳南電車に乗って行くような辺鄙なところに全国から学生が来るのだろうか。それは全国一と言えるような子どもの居場所を作っているからこそ、若い人たちが集まってきたのだと思う。彼らから静岡市には何があるのか聞かれた。まるちゃんはどこにあるのか、三保松原はどうやっていくのか聞かれたが、答えると時間がなくて行けないと言う。みなさん新幹線ではなく鈍行列車の旅だ。時間もお金

もない中で、ワークショップの後にどうやって静岡を満喫しようかと考えていた。三保松原は遠い、日本平もバスのアクセスが悪い。駿府城公園では発掘現場が見られると誘ってみたが、発掘現場を見て何が楽しいのかとなってしまった。静岡おでんは何かと聞かれる。私たちにとって、静岡おでんは B 級グルメであり、駿府城＝家康公となるが、県外の人はそれを知らない。歴史的重要性やグルメといっても全然分からない。これが静岡のものだと言っているが、県外では限られた人たちにしかその魅力が伝わっていない。ガンプラもそうで、ガンダムが好きな人はたくさんいるが、それが静岡の工場で作られているのは本当に好きな人にしか知られていない。そうかと思えば、週末やっていたガールズコレクションには人が大勢来る。やはり、ターゲットを決めるのがもちろん大切だが、さらにターゲットを決めながら何をどのように発信していくかが重要だ。今いろいろな静岡のポテンシャルがあるのは分かった。その中で、特にこれだけは静岡は譲れないというものをいくつか見つけて、それを誰に対して発信するか。どのような形で発信するか。西尾委員からも MaaS の話があったが、これからはスマホ決裁がすごく増えていくし、それはインバウンドのお客様にとっても非常に魅力的になってくる。あと、SDGs をうたっている静岡市なので、その辺りを鑑みながら進めていっていただけるといい。

坂野真帆委員：皆さんおっしゃることはその通りで、でもこれを読むと間違ったことは書いていないとも思う。全体を見ると、歴史文化をテーマとしたところの歴史文化とは別のところでも触れていけるという感じだ。食とか他のテーマで書いたとしてもこれで行けるなと思うから、とてもいい内容なのだと思う。ただ、やはり皆さんも言う様に個性ということだと、もう少し歴史文化に熱が入った形がいい。これまでの議論の中でも、そこに関する意見があまり出ていなかったかもしれない。小泉委員がおっしゃったように、歴史文化施設自体が稼ぐのではなく、これを尖らせることによって人が来て、全体が稼げる、周辺が稼げるという形が目指す姿なのだと思う。歴史文化というところが前段で背景や特徴の中にあるが、そこをもう少し、答申書としてはもう少し厚めに書く。テーマなどをもう少し特出しするのがあってもいいのではないか。あとは、もう少し歴史文化にお金をかけて、磨き上げということが今あるものを組み合わせてということだけではなく、それぞれの市が持っているものに人材育成だとか何か投入する部分があるようなものが見えるといいのではないか。散漫に出た意見をこのようにまとめていただいたのはすばらしい。具体的な意見が言えなくて申し訳ない。

小泉祐一郎委員：リピーターの関係で、私は専門家ではないからお客さんの立場でしか分からないが、なぜここにまた行くのかという質問に対して、人に会えるからという回答が結構多い。例えば宿ではそこのおばちゃんと親しくなったからとか、人と触れ合うという部分はリピーターの関係では重要かなと思う。もう一つは、16 ページに取組の効果的な実施という部分あるが、田辺市長が行革審に何を期待するかについて、今までの単にスリム化していく行革ではなく、答申で効果を発揮するということだった。予算措置等につなげていただけるというのが一つの大きな答申の意味だとすると、リピーターには追加投資

が重要だ。何か施設を作るときは最初にお金がドンとつくが、お客さんが来るようになってから、そこで工夫して追加投資しなければならない場合がある。そこはやってみないと分からない部分がある。大きな改修をやるのではなく、ある程度追加投資をやっていく。追加投資でさらに磨き上げることが重要だ。これを書いていただいて予算措置にもつなげていただけるといい。それから、リピーターは今度新しくこういうものがあるようだからまた行ってみようというように、前と変わらないというのではなく、そういう点も含めて書いてはどうか。リピーターの関係は専門の方にも話を聞いてもらいたいが。

田形和幸会長：同じ都市にもう一度行くということはある。京都にあれだけの人が行くのは、紅葉の時期だから、桜の時期だからという季節によるものだったり、何かおいしいものを食べに行くというケースもある。その中で良かったらまた行くということになる。今、施設ごとにいろいろな特徴があり、せっかくいいものがあるのに、うまくアピールできていない。この季節にはここに行くといいとか、夏の時期は静岡のここに行くといいというのがあるといいと思う。お金をかけるという話にしても、名古屋城に何度も行ったが、御殿ができたから見に行ったこともある。

それから、もっと民間と連携してもいいのではないか。私たちは信用金庫なので、ある程度公共的な部分があるが、お金を出すことは全然やぶさかではない。地域経済の活性化という言葉も出ているが、もっと市と連携できないか。頼むところは民間に頼んでもいいのではないか。先程の看板にしても代理店に頼んでもいいし、鉄道事業者に頼んでもいいかもしれない。この施設に行ったら、次に30分以内に行けるところはどこか、1時間以内だったらこういうところを回遊できるというような説明があって、そういうものも民間に頼んでもいいのではないか。一通り御意見をいただいたので、ここで10分間休憩にする。

≪休憩≫

小泉祐一郎委員：三保で調査した時に、韓国から来た家族の方が、スマホで写真を見せながら、ここに行って写真を撮りたいと言う。写真を見ると、歴史的な資源のところによくあるような、三保松原と書かれた白い木で作ったような柱が立っている。確かに、ここに来たということを示すような、場所と名前が書いてあって、雰囲気があるところで写真を撮りたいというのはあると思う。金沢の兼六園の成功事例では、灯篭の写真を毎回、何でもこの写真を使う。PRする方が飽きてしまっていろいろな写真を撮るが、金沢は飽きずにアピールする時に何でもこれを徹底した。来ている方は飽きない。確かに立派な建物があってそれをうまく写真に撮るが、ここが駿府城だ、ここが巽櫓だということを示しながら撮影できるスポットはどこにあるか。私は弥次喜多像のところで、弥次喜多像と一緒に巽櫓を撮っている。結構、皆さん情報を発信するものだ。撮影スポットとしてもう一工夫した方がいい場所があるのではないか。特に外国人に向けて。確かに昔の白い縦の看板は写

真にも収まりやすい。横看板は後ろのものが隠れてしまったりする。そういった視点で撮影スポットを考えてみてもいい気がする。

田形和幸会長：今、現実にはそういうものがあるのか。

歴史文化課長：国の史跡とか指定されている古墳や寺には、国の指示で史跡、賤機山古墳というように石で作っている。三保松原は国の名勝なので、昔はあったし、今もあると思う。日本平も国の名勝だからあると思う。

小泉祐一郎委員：石のものは写真で撮ったときに字が少し分かりづらい。金色や黒字で入れると景観上の問題が出てしまうが。写真を撮る上では、何か書いてあるものがいいと思う。

田形和幸会長：世界遺産に行くと世界遺産と書いてあるところで写真を撮る。特に外国人の方は、どこに行ってきて、これがそうなのだということが分かりやすい形がいいのかもしれない。行く前に写真を見てここに行きたいと思ったのだ。回遊してもらい、そこに行きたいと思わせるためには、きちんと名前が分かるようなものも必要かもしれない。統一されたものがあればいいが、文化遺産とか遺産の種類によって形態が違うのかもしれない。

小泉祐一郎委員：現地には結構ある。ただ、撮影スポットとして適当かと考えるとどうか。

田形和幸会長：三保松原と富士山を一緒に撮るには階段の方がいい。撮影スポットを作るのも一つかもしれない。そしてそこに誘導する。御穂神社に行ったときに「神の道」を歩いて行ってみたが、どうせだったら全部にあった方がいいのかと思った。

鈴木貴子委員：小泉委員からリピーターの話が出たが、今週、私の友人が何人か日本に来ている。中東から来ている友人が、富士山を静岡とは逆側の富士五湖側から撮って、SNS で紹介していた。外国人の多くは、富士山と五重塔の写真がものすごくインパクトがあり、どうしても三保松原と富士山というのは、海岸の砂浜を歩かなければならなかったり、寒いというイメージがあって、なかなか写真を撮る人がいないようだ。三保松原に行って、きれいな三保の松原と富士山の写真が撮れるフォトジェニックな場所だということの周知が十分なされていないと感じた。

今週末はロシアからの友人が来ていたが、最初に関西に滞在し、土日に東京に移動するという話だったので、新幹線で途中下車して静岡に来るように伝えた。2時間あれば大阪からも来られるし、1時間あれば東京にも行けるが、結果的に時間がないということで静岡には来なかった。新幹線ののぞみが停まらないということで、ジャパンレールパスではなかったから10分間隔で出ているのぞみが良かったらしい。一時間に1本あるかないかの静岡に停まる新幹線に時間を合わせ、そしてまた1時間に1本あるひかりに合わせて東京に行くか、1時間に2本あるこだまで行くか。それに乗ると東京到着が遅くなるし、時間を気にしながら静岡を滞在しなければならないからという理由だった。こういうことは非常に残念だ。彼らは日本に2、3回来ていて、京都や東京は何度も訪れているから、ぜひ地方に来てもらいたかったのに、どうしても交通の便が今一つということで機会を喪失してしまっている。地方から来た学生からは、静岡にはバスターミナルがあるかと聞かれた。静岡市は、静岡駅と東静岡駅から長距離バスが出ているが、どちらもバスターミ

ナルがないので、夜に彼らがバスを待つ間、居られる場所がない。静岡駅であれば、かろうじて９時くらいまでだったら喫茶店などがあるかもしれないが、東静岡の夜 10 時発の金沢などの北陸方面行き、あるいは九州や大阪に行くバスの近辺には何にもない。特に北側なのでラーメン屋しかない。マークイズもこの１月６日から閉店時間が８時になってしまった。サウナではないが柚木の郷があるから、そこに９時半頃までいて、９時半を過ぎてから東静岡に行けば体も冷えずにバスに乗れるかもしれないが。結局、静岡に来ても居場所がない。静岡の街中も８時には店が閉まってしまう。全員が新幹線ではないので、特に貧乏旅行という言い方は悪いかもしれないが、経済的な旅行の仕方をしている人、あるいはインバウンドの方でギリギリまで何かをやって、バスで旅行をしたいというお客さんもいるし、９時くらいの新幹線でどこかに行きたいというお客さんももちろんいるので、そういう人達が過ごせる場所がメジャーな駅にない、あるいはその周辺にないというのが問題だ。だから静岡は素通りされてしまう。結果的にはリピーターになってもらえなくなってしまう。行政だけでなく、民間もうまく活用しながら、東静岡駅の北口も何かやろうという話もあるが、人の流れの数字が今ひとつはっきりせず、少ないと出てしまっている現状が、まさに今何もないから人が集まらなくなってしまっているという負のスパイラルに陥っている。そこに集客できる何か、遅くまで居ても安心で安全だと思える場所が必要だ。それが、静岡に来て良かったと思ってもらうことにつながる。そしてまた、安心して他の人にも伝えることができるし、自分たちも再び来た時にまたここを使えば静岡を拠点に旅に出ることができると思うだろう。

先程チームラボの話があったが、４、５年前に駿府城公園でチームラボのイベントが夜間にあり、非常に多くのお客さんが来ていた。そういうイベントを時々うまく使うのがいいと思う。

植田眞委員：友達などは東京、大阪が多いが、静岡に来たという時にどこに行くか。一回目は駿府城などに行く。やはり観光ホテルが非常に少ない。もう少しバラエティに富んだホテルがあってもいい。日本平の景色は一級だ。そこに連れて行くのはあるが、日本平ホテルはそんなに部屋数が多くない。観光地にホテルが少ないというのが一つ。

そこからどこに連れて行くかといったときに、さくらももこ、エスパルスドリームプラザに行ってそれを見るというよりも、ゲゲゲの鬼太郎のようにさくらももこロードのようなものがあったらいいと思う。

それを見て、桜橋から静鉄電車に乗る。静鉄電車はもう少しデコレーションすればかなりいい電車だ。私の娘が鎌倉にいるが、鎌倉の江ノ電のような集客力があったらいいのではないか。静鉄電車に乗って来たら駿府城に近いということで、駿府城を２回、３回と訪れてもらえるような場所にしたい。日本平から清水、静鉄に乗って駿府城というようなコースをうまく作っていったらいいのではないか。要するに、静岡に住んでいる我々が考えるようないろいろな提案を取り上げていくような仕組みがあれば、いろいろなアイデアが出ると思う。

田形和幸会長：日本平ホテルがあれだけ景色がいい。では、いつもいっぱいかというとそうでもない。せっかく静岡に来るのだったらそこから富士山を見ようという話になるが、そんなに泊まらない。私たち信用金庫協会では、来月も東京から年金旅行で人が来るが、泊るのは静岡ではなく、伊豆などに泊っていただく。泊まるための旅館やホテルが確かにない。せっかく歴史的なものがあって、ホテルはたくさんできているが、個人の方は、おそらくそういうビジネスホテルに泊まるのだと思う。どこかでゆっくりする場所はなかなかない。稼げないから民間はやらないのか。日本平ホテルも土日はいいが、平日はなかなか集客がないのかなと思う。日本平夢テラスができたから、伊豆に泊っているお客さんに日本平ホテルにお昼を食べに来てくれるといいと思って、3,000 人ほどを一カ月かけてずっと来てもらったのだが。それから、一度来た年金旅行客がまた静岡に来てくれるかというとそうではない。いろいろなところの信金に行って勧誘するが、リピーターとかそういったものは何となくうまくかみ合っていない気がする。

事務局：本市の強みとなるようなものがたくさんある中で、何でもあるということが、逆に魅力がない、尖らないということになっているという現状があると思う。非常に特徴のある、一つで勝てるものがないのが現状だ。その中で静岡市は歴史文化資源が豊富にあり、今度歴史文化施設がその中心としてできるという中では、それを中心として何か関連づけて、魅力を作っていかなければならない。ネットワークの関連で、一つで勝てないというところで、どんな組み合わせがあるか。前回は、富士山というキラーコンテンツを組み合わせるという御意見をいただいたところだが、尖らせるために、例えばどういったものを組み合わせればいいのか。

岩井泰次郎委員：どこを切り口にしてもそこそこ行けるということでは、歴史文化施設という言葉はたくさん出てきている。市長が我々の前で話してくださった時も、新しい施設に力を入れていることが感じ取れたから、そこを切り口にするのであればそれを切り口にして、どうフッキングしていくかを考えていく。例えば歴史といっても、登呂遺跡の弥生というのではなく、徳川や今川を切り口にすれば、天守閣から見た、家康が見ていた富士山ということになり、VR などの色々な技術を取り入れたりできる。切り口を一つ大きく決めて、ここの施設の有効活用、有効稼働を考える。そこからコンシェルジュ機能をどう出すかという議論はあるが、そういうところで今まで出てきた食をどうフッキングするかとか。中心をうまく置いた方が議論しやすい。

小泉祐一郎委員：何を磨いていくか。全国の地域振興でうまく行ったところも、最初からうまく行っているわけではない。飽きずに 10 年くらい、これは資源だというものをしぶとくやることが、結局はうまくいく例の基本だと思う。石垣は、パッと見れば石垣？何それ、そんなの見に来る人いるのかとなるかもしれない。今有名なもの、景勝地なども、最初からそうだったわけではない。これがいいと言い続けていく。今出ている石垣も 10 年くらい、誰が何と言おうと石垣だといってしぶとくやっていく。成功していないところは中途半端にやって、数年やって目が出ないから諦めている。失敗はしていない、成功していな

いだけ、成功するまで我慢できないだけだ。せっかく石垣でこれだけやっているのだったら、石垣にこだわって、石垣いちごとか、タミヤさんに石垣のプラモデルを作ってもらうとか。民間に対して何か石垣でできないかと持ち掛ける。フランスの話だが、フランスの博物館などはそんなに急に建てない。10 年くらいかけて徐々に建てていく。造っている途中の工事現場を見せて料金を取り、造っていく過程を見せることでアピールしている。最初からどんと天守閣を造るという話にどうしても行ってしまうが、まずは土台で一儲けして、その次に、ということでしぶとくやっていったらどうか。

田形和幸会長：歴史文化施設をせっかく造るのだから、そちらを利用するというのも一つだ。せっかく石垣が出てきたのであれば、そこにどういうものがあったとか、イメージで作るしかないが、そういうものを見せるとか。徳川家康がこの天守閣から見た富士山ということで、現実に作らなくてもそういう映像を作って見せるとか。そこからはあそこを見ていただいて、櫓に行ってもらって石垣を見てもらう。石垣を見学した時に、いろいろな刻印があった。その後探したのだがよく分からなかった。アピールが足りないのか、なかなか見つけられなかった。

内山和俊委員：若干風化が始まっている。400 年経っているから刻印が少し薄くなっている。

田形和幸会長：せっかく造るものがあるのであれば、それを切り口にするのもあるかと思う。

鈴木貴子委員：駿府城公園の外にある歴史文化施設を今後活用しながら、その周辺をいかにうまく活用し、周辺の人達の協力を得るか。時間のない人達に静岡を回遊しながら駿府の歴史を楽しんでもらう。そして、グルメを楽しんでもらえるようにするのがいいと思っている。それはやはり民間や商店街の協力が必須だと思っている。北街道は昼の 3 時過ぎになると渋滞になる。あそこもうまく歩きながら行くと、ちょっとした気になるお店があったりする。浅間神社に向かう途中の商店街にも、段々シャッターが閉じているお店も多くなっているが、気になる店とか全国的にも有名などらやきやさんがあったりする。また、少しずれたところには美術館もあったりする。歴史と文化ということを考えると、そうした民間の美術館、それから日本平美術館も西草深にあるので、そういったところとも提携する。個人でやっている美術館や博物館は規模が小さいので、個人の施設ということでなかなか取り上げられなかったりするが、この機会にぜひそういう所にも足を運んでいただき、その周辺を散策しながら浅間神社の方まで歩いていただく。浅間神社も徳川との縁もあるし、あそこの塗り物もすごく素敵だ。今も資料館があるから、東照宮に行けなくても静岡の街中である程度は完結できる。それであれば半日から 1 日で十分楽しめる。グルメに関しても、例えば、焼津にかなり近いところに住む農家の女性の方が、家康公が食べたであろう料理を再現して自宅で食べさせてくれる会食会がある。その方によるワークショップ、あるいは提携して似たようなメニューを出すことによって、家康公あるいは徳川の時代に多くの人が食べていたもの、庶民ではない人たちが食べていたものなど、いくつかジャンル分けをしながら、弥次さん達が食べていたとろろだけではないということを紹介することができる。別の意味の静岡のグルメも紹介でき、またいろいろと回遊でき

るようになるのではないかと思う。

坂野真帆委員：私も石垣押しだ。駿府城をもっとしっかりと皆さんにアピールしたいという想いがある。駿府城で、そんなに時間をとって見るべきものがあるとは思わなかったから時間がないと言う方が多いことを考えると、ちゃんと見るべきものがあることを事前にアピールするような、今川復権だけでなく駿府城の復権もいいのではないか。

ネットワークの構築というのが肝になっていると思うが、ネットワークの構築とは何なのかがすごくあいまいになっている。それは周遊コースを決めることなのか。テーマ性、ストーリーを書くことなのか。何をもってネットワークの構築ができたと言えるのか、全体を読んだ中でも今一つよく分からない。

誰がどうやるかというところも不安が残る。一つは、全体のプロデューサーというか、こういったそれぞれの部分を全体通してブランディングするということだと思うので、誰がそれをやるのか。一つはそうしたプロデュース機能。もう一つは、それぞれが官も民も関わってそれを実現するとなっているので、官とは誰か、民とは誰か。それが見えにくいから少し抽象的な内容になっている気がする。ネットワークを構築するための手法ということで、これまでの資料でまとめられたところもあるが、官民連携という書き方をされているものもあり、誰が該当するかがもう少し具体にあるのもいいかもしれない。あとは、それぞれが一つ一つ独立してなされるものではなく、全体でなされるものなので、それを市としてどういう風にまとめ上げてプロデュースするのかというのが気になるところだ。

田形和幸会長：事務局がまとめて答申したら、事業計画の中ではおそらく来年度は無理だろうが、各課に振り分けをされていくということでいいか。

事務局：具体的にどういった体制を作るかとか、ネットワークを構築するためにどんな制度や体制を作ればいいかというのは市が考えることであると思うが、それに当たって留意する部分、どういう所に着目した方がいいというのがあればお伺いしたい。

小泉祐一郎委員：ネットワークの構築というのは、私も言葉として使っている。役所でネットワークの構築というと、すぐ仕組や体制を作ってネットワークを作ったと言っている。そういうのが結構多いが、どうもいまいちな場合が多い。逆に、これがネットワークだと実感するのは、そういう大きな組織や仕組があってネットワークができるというよりも、むしろ、例えば駿府城のおでん屋さんに行って、これからどこか行きたいがどこに行ったらいいのかと雑談で聞いたりする。どちらかというと、そういう世界に実際の意味があるのではないか。また、歴史文化施設の中で人が滞留するところに駿府ウエイブさんなどがいて、そこで雑談しながら誘う。今回の歴史文化施設の特徴として、東海道という一種の静岡市のネットワーク、丸子から由比までのそれぞれの宿場の紹介もあるから、そういう施設的なアピールはある程度されると思う。では実際に行ってみようということにつなげるには、やはりそこに人が介在しないと難しいのではないか。そういう取組をやられるといい。大々的にやるのもあるが、どこかで拠点的に、実験的に始める中でネットワーク

を広げていく方が実際には意味があるのではないか。日本平に行って、次にどこに行こうかと思った時に、こっちに行くとこうだとか、今日はあそこでこんなイベントがやっているとか、夢テラスの所でも情報が十分発信されているわけではない。お互いの施設で他の所に誘い、アピールする。これができれば民間のところにもうまく誘える。どちらかというと、組織や仕組を作るよりも、そういうことがいくつかのところで始まって、それがある程度うまく行き出すと、どんどん広がっていく。そこを後押しするのが、するが企画観光局なのかどこかは分からないが、そういうものを橋渡ししたり、お願いするようなことは必要だと思う。何が言いたいかというと、立派な組織を作ってネットワーク組織ができたという形からいくのではなく、具体の活動を促す形から積み上げて行って広げていく方が、実効性があると思う。組織を作ってはいけないと言っているわけではないが。

西尾真治委員：官民連携は非常に大事だ。提言書の最後にも「官民連携による目指す姿の実現」という項目があるが、上の一文は「行政だけで対応することは難しいから官民連携する」とあるし、二文目は「行政が積極的に様々な主体に働きかけ、コーディネートを行っていく必要がある」とあり、どちらも官主導の官民連携のイメージが書かれていると感じた。先程の小泉委員の意見と同じだが、官主導で連携体制を作っていくことを考えるよりも、まずは民間の中でこういうことをやりたいという人たちが集まったり、民間の中からこういうことをやりたいと立ち上がってくるような場作りというか仕組作りだ重要だ。最近、渋谷をつなぐ30人の会とか、京都をつなぐ30人の会とか、民間で地域を何とかしたいという人達が集まって自分達でやれることを見つけてやっていくという取組が広まっていたりする。民間の中から何かやりたいということが立ち上がって行って、行政はそういう場を作る役割と、そこから立ち上がってきたことに対して後方や側面から支援する。そういう民主導での官民連携のやり方を考えて行った方が、特に観光の分野ではより効果が高いのではないか。

内山和俊委員：日本平の取組について紹介するが、日本平ホテルを始め、日本平で店舗展開しているお店、久能山東照宮や日本平ロープウェイ等、日本平に立地している企業・団体等で日本平観光組合という組織を作り、連携してホームページを立ち上げたり、誘客促進、日本平夜市等の取組を行っている。直近では、2月に日本平の梅まつりを実施する予定である。

駐車場確保ということで、この前、駿府城公園でやっていたら県外ナンバーの方がぐるぐる回って駐車場を探している。観光バスは大体分かるが、個人の方は駐車場が分からない。久能山東照宮に久能山下から行く場合に、観光バスを停める場所がない。臨済寺に行きたいが、臨済寺の辺りにもない。県外から車で来訪される方が駐車場が分からず困っている事例があることも聞いている。これは優先順位をつけて早めに対策をお願いしたい。民間の駐車場とか公共の駐車場とかいろいろあるが、そういうのを早めに対策された方がいい。

田形和幸会長：確かに県外ナンバーがこの3連休にも結構お見えになっている。今、駿府城

公園は市民文化会館の駐車場を使って人が多いのか。

歴史文化課長：ご案内する時は公共交通機関を使ってくださいと案内しているが、個人の車の駐車場については、市民文化会館の駐車場を使われる方が多いと思う。

田形和幸会長：県庁の横にあるが、あれは使えないのか。

内山和俊委員：土日は使えない。

田形和幸会長：お堀の水を抜いてカフェテラスにするという話があったかと思うが、歴史文化施設の中には食事ができるところ、飲み物が飲める場所は作らないということで、そういう計画になったのか。

歴史文化課長：歴史文化施設自体は博物館になるため、そういう管理が非常に厳密だ。一応電気等で対応できる範囲（その場で調理せずに温める程度）での飲み物提供になる計画だ。紅葉山庭園の茶室自体がお茶会などの茶事ができる施設になっているので、そこで食事の仕出しという形での対応ができないかというのは少し考えている。

田形和幸会長：他に御意見等がないようであれば、本日の審議は以上とする。

静岡市行財政改革推進審議会

田形和幸